

わが街熊谷遺跡めぐり 前中西遺跡 最新出土品展

1. はじめに

前中西遺跡は、市内上之に位置しており、平成8年度から区画整理事業に伴い、発掘調査を行っています。これまでに行った調査の結果、遺跡の主体となる弥生時代は、中期中頃（約2,100年前）から後期初頭（約1,900年前）までの長期間にわたり、遺跡範囲の北側に集落跡、南側に墓域が広がっていることが明らかになってきています（図1）。

今回は、『前中西遺跡最新出土品展』と題して平成22年度に整理調査が終了した遺物の中から全国的にも珍しい弥生時代の土偶、子供用のお墓である土器棺墓、竪穴住居跡や大人用のお墓である方形周溝墓から出土した土器や石器などについてご紹介いたします。

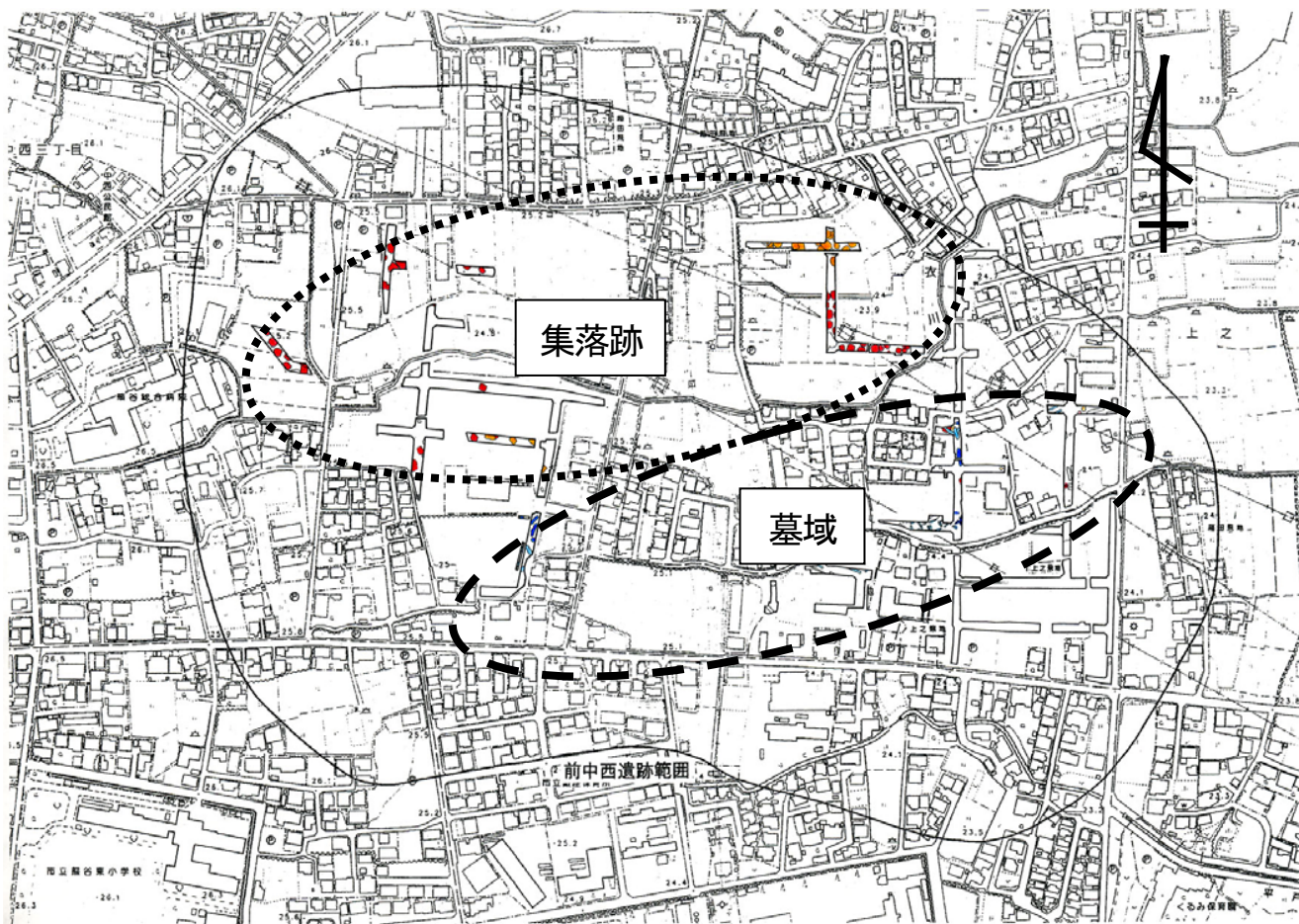


図1 前中西遺跡の範囲及び集落跡と墓域

2. 土偶について

土偶とは土で作られた人形のことであり、お祈りを捧げる際やお祭りを行う際に使用されたと考えられています。通常、土偶というと縄文時代を連想しますが、縄文時代の伝統が強く残る東日本では弥生時代でも一部の地域で作られ続けていました。

前中西遺跡では今回ご紹介する2例を含め、これまでに計5例の土偶が出土しています。弥生時代の土偶がこれほど多く出土することは非常に珍しく、またそのほとんどが弥生時代中期後半（約2,000年前）のものであることから弥生時代でも最終段階の土偶と考えられます。

今回ご紹介する土偶2例は、いずれも第2号溝跡から弥生時代中期後半の土器とともに出土しました。



第2号溝跡遺物出土状況



第2号溝跡から出土した土偶2例

3. 土器棺墓^{どきかんぼ}について

土器棺墓とは、土器^{ひつぎ}を棺として使用した子供用のお墓です。

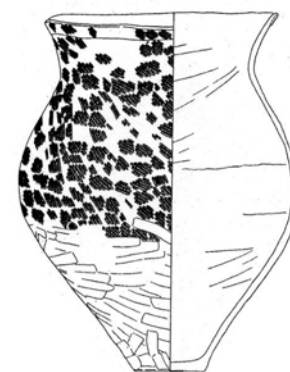
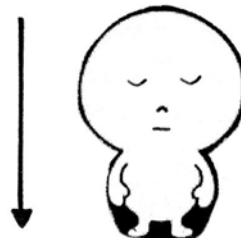
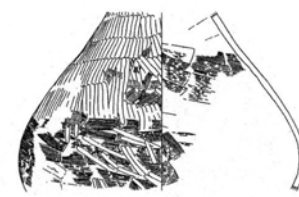
大型の壺^{つぼ}や甕^{かめ}を組み合わせ、その中に遺体^{いたい}を安置^{あんち}し、穴^{まいそう}に埋葬したと考えられています。

今回ご紹介する土器棺墓は、
竪穴住居跡^{たてあなじゅうきょあと}の中から見つかりました。蓋^{ふた}に壺^{つぼ}の上半分、身^みに甕^{かめ}を使用しており、いずれも弥生時代中期後半に相当^{そうとう}します。

前中西遺跡^{まへなにしゅういせき}では、本例を含め
これまでに計10基の土器棺墓
が見つかりました。



使用された土器(上:壺、下:甕)



土器棺墓の埋葬方法

4. 竪穴住居跡出土遺物^{たてあなじゅうきょあと}について

3軒^{けん}見つかった竪穴住居跡^{たてあなじゅうきょあと}からは、完形^{かんけい}の土器は出土^{しゅと}しませんでした。中期中頃^{ちゅうきゅうちゅうご}と後半^{こうはん}に相当する土器がたくさん出土し、中期後半^{ちゅうきゅうこうはん}の住居跡からは東北地方南部^{とうほくちほうなんぶ}から持ち込まれた土器片^{どきへん}も1点出土しました。



東北地方南部の壺の破片



弥生時代中期中頃の壺(胴部)



弥生時代中期後半の壺(左)と甕(右)



5. 方形周溝墓出土土器について

方形周溝墓とは、周囲に四角く溝を掘り、真中に土盛りをして遺体を埋葬する大人用のお墓のことをいいます。今回ご紹介する第1号方形周溝墓からは、弥生時代中期末から後期初頭（約1,900年前）にかけての壺がたくさん出土しました。



壺が出土した様子



第1号方形周溝墓から出土した壺

6. その他の遺物について

竪穴住居跡やお墓以外からも弥生時代の遺物が出土しています。

石器（打製石斧・磨製石斧）は木を伐採したり、土を掘るために使用されました。土製

紡錘車は、糸を紡ぐために使用されました。



打製石斧(左)・磨製石斧(右)



土製紡錘車

平成23年5月16日発行

熊谷市立江南文化財センター（熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護係）

— わが街熊谷遺跡めぐり — 「前中西遺跡最新出土品展」

企画展解説書 第9集